

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	乳児保育Ⅱ	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	乳児保育で学んだことを基礎として、保育を実践するために必要となる乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について、実践的な視点から具体的かつ総合的に理解する。	
授業の到達目標	乳児の生活と家庭との連携、保育者の役割について理解したうえで、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	阿部和子『乳児保育の基本』萌文書林。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
乳児保育の基本となる考え ・乳児保育の意義を考察し、理解する。		1
乳児の生活 日課 ・子どもの生活と保育者の配慮や保育者同士の連携について理解する。		1 〈科目終了試験学修のポイント1・3〉
乳児の生活 遊ぶ ・乳児にとっての遊ぶことの意義を知る ・発達と遊び、保育者のかわり方などを理解する。		1 〈科目終了試験学修のポイント1・3〉
乳児の生活 食事 ・授乳・離乳・幼児食へのすすめ方、食べ方 楽しく、美味しく食べられる条件について理解する。		1 〈科目終了試験学修のポイント1・3〉
乳児の生活 睡眠 ・乳児期の睡眠リズム、睡眠に適した環境づくりや援助について理解する。		1 〈科目終了試験学修のポイント1・3〉
乳児の生活 排泄 ・自立への過程を理解するとともに、援助方法を理解する。		1 〈科目終了試験学修のポイント1・3〉
乳児の生活 安全 ・日常の健康管理と事故防止対策を理解する。		1 〈科目終了試験学修のポイント1・3〉
乳児の生活 健康 ・感染症の種類と予防対策、発生した場合の対応を理解する。		1 〈科目終了試験学修のポイント1・3〉
乳児の生活 保育室 ・親しみとくつろぎの場としての保育室の在り方を理解する。		1 〈科目終了試験学修のポイント1・3〉
家庭とのつながり―連携の方法と支援について理解する		1 〈科目終了試験学修のポイント4・5・6〉
保育所での環境と生活の仕方 ・保育環境としての人的、物的、自然・社会的環境と、保育所での生活の仕方を理解する。		1
生活を支える保育者の役割 ・保育の計画・実践・記録・評価について理解する。		1
子どもと生活を共にする保育者の役割 ・職員間の連携や、他機関との連携の重要性を理解する。		1

日々の生活の中から見えてくる子どもの姿 ・乳幼児の生活経験と育ちについて関連性と重要性を理解する。	1
乳児が生活する場所の問題 現状と制度と今後の課題について〈科目終了試験学修のポイント2〉 ・子育て支援センター事業や待機児童問題、幼保一元化の動向について理解する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	障害児療育	
担当教員の実務経験	障害児保育施設理事長	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場として統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないがトラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的知識と対応力の向上は必須となっている。 本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識をふまえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にある保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携等に視点をおきながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。	
授業の到達目標	保育現場で出会う可能性のある障害についての理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	小林保子、立松英子『保育者のための 障害児療育－理論と実践をつなぐ－』学術出版会。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
障害の理解（教科書pp.11-22） Key words:ICIDH、ICF、児童の権利に関する条約、障害者基本法、保育所保育指針		1
障害のある子どもの生活を支える福祉や医療の制度（教科書pp.23-32） Key words:手帳制度、発達障害者支援法、障害者総合支援法、小児慢性特定疾患治療研究事業、臓器移植		1
障害のある子どもの発達（教科書pp.33-42） Key words: 発達の偏り、IQ、DQ、発達プロフィール、言語、運動、情緒、社会性、ボトムアップ、トップダウン		1
療育における家庭の子育て支援（教科書pp.43-54） Key words:ライフステージ、障害の受容、Drotar の図、早期発見、早期療育、相談事業、地域支援		1
療育の種類と支援・専門家との連携（教科書pp.55-64） Key words:統合保育、分離保育、並行通園、交流保育、通園施設、通所施設、病棟保育、		1
地域における専門機関との連携（教科書 pp.65-72） Key words:発達支援センター、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理職、福祉職、Trans disciplinary な支援		1
就学への移行と特別支援教育（教科書 pp.73-89） Key words:小学校との連携、個別の支援計画、特別支援教育、就学基準、特別支援教育コーディネーター		1
よりよい療育実践のために（教科書 pp.93-107） Key words:発達の観点、非嫌悪的接近、合併症、発達検査(評価)、療育プログラム、実態評価		1
知的障害児への支援（教科書 pp.109-115） Key words:AIIDD の定義、知的機能、適応行動、認知、視知覚、協調運動、記憶		1
肢体不自由児への支援（教科書 pp.117-132） Key words:身体障害、脳性まひ、痙直型、アテトーゼ型、失調型、筋ジストロフィー、重症心身障害児、健康特性		1
自閉症を伴う子どもへの支援（教科書pp.133-142） Key words:自閉症スペクトラム(ASD)、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、こだわり、視覚支援		1

「気になる子ども」への支援 (教科書 pp.143-150) Key words: 落ち着きがない子ども、注意欠陥多動性障害、強度行動障害、虐待との関係	1
教材・教具と発達支援 (教科書 pp.151-159) Key words: 触覚、はめ板、動作性課題と言語性課題、認知発達学習	1
運動遊びと発達支援 (教科書 pp.161-178) Key words: 粗大運動、微細運動、知覚運動、調整運動、身体意識、感覚運動期、前庭覚、固有覚、ムーブメント	1
事例に基づいて	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	教育相談（カウンセリングを含む）	
担当教員の実務経験	臨床心理士として精神科病院等で実務経験有	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	教育相談は、現在の学校教育のすべての活動のなかで幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、生徒指導上の有効性、学級経営上の有効性などを理論、技法・態度などの体験を通して学修していく。内容は、来談者中心カウンセリング、行動カウンセリング、グループカウンセリング等の理論、技術を、講義やロールプレイ(役割演技)を実施しながら、一人ひとりが確実に体得するよう進めていく。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	石川正一郎、他『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
教育相談の定義(教科書pp.2-11) ポイント:教育相談の歴史を踏まえ、教育相談の意義と役割について理解する。		1
教育相談の実際(教科書pp.176-196) ポイント:カウンセラーではなく、教師だからこそできる相談の長所・短所を理解する。		1
開発的カウンセリング(教科書pp.23-31、参考文献「教職科目要説中等教育編」p.76 心理劇について) ポイント:問題が起こってから対応するのではなく、問題の予防や児童生徒がよりよく生きるためのカウンセリングについて理解するとともにクラスや小集団で行われるグループワーク(心理劇等)についても理解する。		1
来談者中心療法(教科書pp.13-22) ポイント:教育相談の基本となる態度およびカウンセリング・マインドについて理解する。		1
精神分析(教科書pp.32-36) ポイント:教育相談に役立つ精神分析を基本とする心理療法の知恵を理解する。		1
行動療法・認知行動療法(教科書pp.36-40) ポイント:教育相談に役立つ行動療法・認知行動療法の技法について理解する。		1
家族療法・ブリーフセラピー(教科書pp.40-42) ポイント:教育相談に役立つ短期療法の知恵について理解する。		1
教育アセスメント(教科書pp.90-109) ポイント:教育アセスメントは、面接・観察・テストからなることを踏まえた上で、学校でよく使われる心理テストについて理解する。		1
発達障害(教科書pp.69-78) ポイント:発達障害の特性について理解し、その特性に合った働きかけを考える。		1
心の問題(教科書pp.79-88) ポイント:心の問題について理解することで、早期に医療との連携を必要とする判断力を身につける。		1
不登校(教科書pp.112-124) ポイント:不登校児童生徒の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。		1
非行(教科書pp.126-139) ポイント:非行少年の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。		1

学級崩壊(教科書pp.140-148) ポイント:学級崩壊の現状の深めるとともに、基本的な対応について理解する。	1
いじめ(教科書pp.149-162) ポイント:いじめのメカニズムの理解を深めるとともに、いじめ・いじめられ・観衆・傍観者・保護者への基本的な対応について理解する。	1
保護者に対する支援(教科書pp.163-174) ポイント:保護者との関係を作る上での留意点について理解する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	幼児理解	
担当教員の実務経験		
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導、援助を行うことが重要である。そこで、本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	森上史朗、他『新保育講座6 保育方法・指導法の研究』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育方法の基本、保育方法の原理について(テキスト第1章)(科目終了試験学修のポイント1) 幼児をとらえる保育者としての基本的な姿勢についての理解を深める。		1
乳幼児の理解と保育方法(テキスト第2章)(科目終了試験学修のポイント1と6) 幼児をとらえる視点としての内面の理解、発達理解について学ぶ。		1
環境による保育とは(テキスト第3章) 保育における「環境」という概念について学び、環境を構成することの重要性を考える。		1
環境による保育とは(テキスト第3章) 保育における効果的な環境構成と保育実践について考える。		1
遊びによる総合的指導とは(テキスト第4章)(科目終了試験学修のポイント2) 子どもや保育にとって「遊び」とはどのような意味を持つのか考える。		1
遊びにおける総合的指導とは(テキスト第4章)(科目終了試験学修のポイント2) 保育における遊びを通じた総合的指導とは何かについて考える。		1
保育における個と集団とは(テキスト第5章) 集団で生活する中で育ちの特徴、集団の中で育つ個人の育ちについて考える。		1
子どもにふさわしい園生活の展開とは(テキスト第6章)(科目終了試験学修のポイント3) 保育集団の作り方や一日の過ごし方など、保育形態について学ぶ。		1
発達の時期に応じた保育のあり方(テキスト第7章)(科目終了試験学修のポイント6) 入園当初の時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ。		1
発達の時期に応じた保育のあり方(テキスト第7章)(科目終了試験学修のポイント6) 仲間と協力し合い、学びあう時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ。		1
保育の計画と実践(テキスト第8章) 保育における指導計画やその実際、効果的な記録について学ぶ。		1
行事を生かした保育の展開(テキスト第9章)(科目終了試験学修のポイント4) 保育における様々な行事を行う目的と保育の中での活かし方について学ぶ。		1
家庭・地域・小学校との連携を生かした保育(テキスト第10章)(科目終了試験学修のポイント5) 様々な機関や人と連携しながら子どもの育ちを援助することについて考える。		1

さまざまな工夫が求められる保育(テキスト第11章) 障害や文化の違いなど、違いを受け入れながら共に育つための保育について考える。	1
保育者の成長と保育実践の深まり(テキスト第12章) 保育者としての成長や子ども理解、実践の深まりとはどのようなものか考える。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会福祉	
担当教員の実務経験	社会福祉士、通所介護施設勤務経験	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	基礎的な社会福祉について体系的に学修する。具体的には、わが国や諸外国の社会福祉の歴史や歩み、現代社会において社会福祉が果たしている役割、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の行財政と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、少子高齢社会となっているわが国の社会福祉の課題と展望などを学修する。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	小田兼三、杉本敏夫『社会福祉概論：現代社会と福祉』勁草書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
社会福祉の概要と枠組み 社会福祉は人間の生老病死とその課題を取り扱い、負担の軽減や減少を図る。		1
日本における社会福祉の歩み(1) 明治・大正時代の社会事業について 明治・大正時代には、国や地方自治体の社会福祉行政については殆んどみるべきものがなく、民間の人道主義者、博愛主義者の活動が主であった。		1
日本における社会福祉の歩み(2) 昭和年代の社会福祉について 大戦前には厚生事業と呼ばれ、健児健兵政策が中心であったが、大戦後には占領国軍総司令部(GHQ)によって方向づけられた。		1
日本における社会福祉の歩み(3) 平成年代の社会福祉について 社会福祉基礎構造改革がなされ、介護保険が実施され、少子高齢化対策が大きな課題となった。		1
欧米における社会福祉の歩み イギリスを中心とした社会福祉の歩みについて 17 世紀初頭には救貧法が制定されたが、19 世紀になると民間の慈善組織協会が大きな役割を果たしていくようになる。		1
社会福祉の援助対象 社会福祉の援助対象は、貧困、疾病などの現象であったが、次第にそれらを担う人びとに焦点化されていった。		1
社会福祉におけるニーズの捉え方 ニーズは、必要性、需要、欲求、要求、要件などと訳されることが多いが、それらを担っている人びとへのサービスと関係づけられる。		1
社会福祉の法制度 いわゆる憲法第25 条の生存権、第13 条の幸福追求権を基盤として、社会福祉六法及びその関連法から展開されていく。		1
社会福祉の行政と財政 社会福祉行財政について 社会福祉行財政は、国を主導者としていた時代から、近年では法定受託事務などの基礎的自治体(市町村)へと分権化された。		1
社会福祉と民間福祉活動 社会福祉法、特定非営利活動法人(NPO)、福祉事業、ボランティアなどのさまざまな民間福祉活動がある。		1
社会福祉援助技術(相談援助)の意味 相談援助には直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術などの各種の技術体系がある。		1
社会福祉機関の組織と運営 福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、婦人相談所などの専門機関がある。		1
社会福祉の国際動向 社会福祉に関する国際協力が行われているが、なかなか国連だけでは進まず、国際的NPO、国際的NGOの活動もある。		1

21 世紀社会福祉の展望	1
21 世紀には、多くの国々が少子高齢化の問題をかかえており、それらへの対処が大きな課題である。	
これまでの学修を振り返り、これからの社会福祉政策と相談援助活動のあり方をまとめる。	1
社会福祉のハード面である社会福祉政策と、ソフト面である相談援助活動の組み合わせが重要である。	
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	音楽実践演習	
担当教員の実務経験	ピアノ教室講師	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	「音楽」で学んだ基本的な音楽理論(楽典、和声法)鍵盤楽器の基本的奏法を駆使して、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術を実践を通して学ぶが、「音楽実践演習」ではさらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。さらに読譜力を養うと同時に歌を歌うための発声法を学ぶ。「音楽Ⅱ」で学ぶリズム活動など、保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。 スクーリング修了試験について 【ピアノ実技試験】 バイエル80番,81番,82番,86番,88番 の全曲を練習し、1曲を選曲して演奏する。 【弾き歌い実技試験】 ・「おはよう」 ・「おべんとう」 ・「おかえりのうた」 の全曲を練習し、1曲を選曲して演奏する。 【伴奏付け】 コードについての筆記試験と実技試験を行う。	
授業の到達目標	こどもの歌の旋律に簡単な伴奏付をつけて演奏できる。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	ピアノ自主練習	
使用教科書・教材・参考書	石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。 楽譜:『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
演奏レベルチェック、課題曲提示		1
ピアノ個人レッスン(レベル毎に課題曲を提示する)		1
音楽応用理論①(メジャーコード、マイナーコード)		
ピアノ個人レッスン		1
音楽応用理論②(その他のコード、転回形)		
ピアノ個人レッスン		1
音楽応用理論③(コードで弾く歌)		
ピアノ個人レッスン		1
音楽応用理論④(リズムカードの創作)		
ピアノ個人レッスン		1
音楽応用理論⑤(リズムカードのグループワーク)		
ピアノ個人レッスン		1
音楽応用理論⑥(リズムを使った音遊び)		
中間のまとめ(ピアノ実技発表・音楽理論に関する筆記試験)		1
ピアノ個人レッスン(子どもの歌弾き歌い)		1
歌(発声法・歌に親しむために)		

ピアノ個人レッスン(子どもの歌弾き歌い) 歌(表現方法について)	1
ピアノ個人レッスン(子どもの歌弾き歌い) 歌(保育に必要な歌の歌唱)	1
ピアノ個人レッスン(子どもの歌弾き歌い) 歌(保育に必要な歌の歌唱)	1
ピアノ個人レッスン 歌(保育に必要な歌の歌唱)	1
まとめ(ピアノ弾き歌い発表、評価)	1
科目終了試験の準備とまとめ	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	音楽実践演習Ⅱ	
担当教員の実務経験	ピアノ教室講師	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	「音楽実践演習Ⅱ」では「音楽Ⅱ」で学んだことを実践する力をさらに高めるための演習を行う。リズム活動で使用される楽曲の演奏や動きに合わせ即興的に演奏する方法を実践的に学ぶ。わらべうたに関する理解を深め、歌い遊べるわらべうたのレパートリーを増やす。リズム楽器をはじめとする、保育活動で使用される楽器の正しい奏法、扱いに習熟し、子どもの歌や楽曲を楽器で楽しむ方法を学ぶ。弾き歌いの演奏技術に関しては継続的に演奏力を磨く。手遊び歌のレパートリーを増やし手遊び歌はわらべうた同様、正しい音程で歌えるように演習を重ねる。 スクーリング修了試験について 【ピアノ実技試験】 バイエル 96番,100番,102番 の全曲を練習し、1曲を選曲して演奏する。 【弾き歌い実技試験】 こどもの歌の中から指定された1曲を演奏する。 【手遊び】 手遊びのパフォーマンスと歌の実技試験を行う。 保育者が手遊びについて留意する点の筆記試験を行う。	
授業の到達目標	ピアノ技術の向上と、保育現場での弾き歌いや手遊びの実践力をつける。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	ピアノ自主練習/手遊びを調べる	
使用教科書・教材・参考書	石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。 楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
オリエンテーション シラバス説明、(授業概要)、経験値に応じた課題曲選曲		1
リズム活動の実践①拍、拍子感について		1
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン①年齢に応じた 手遊び歌の実践①		1
リズム活動の実践②緩急と強弱		1
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン②年齢に応じた手 遊び歌の実践②		1
リズム活動③言葉とリズム		1
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン③年齢に応じた手 遊び歌の実践③		1

リズム活動④ニュアンスを感じて表現する	1
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン④ 年齢に応じた手遊び歌の実践④	1
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑤手遊び歌の発表	1
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑤ アンサンプルの実践①簡易楽器の演奏法の復讐、留意点について。グループ分け。	1
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑥ アンサンプルの実践②楽器を用いたアンサンブル練習	1
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑦ アンサンプルの実践②楽器を用いたアンサンブル練習（発表準備）	1
アンサンプルの実践②楽器を用いたアンサンブル、グループごとの発表。発表の振り返り。スクーリング修了試験準備のための子どもの歌弾き歌い。	1
科目終了試験に向けてのまとめ。 今後の学び方について。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	子どもの食と栄養	
担当教員の実務経験	管理栄養士経験	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	小児期の栄養と食生活との関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深め、食生活の望ましいあり方と生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。小児の特徴は、成人と違って常に発育・発達していることである。子どもは新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期と変化しながら成人になるが、この発育・発達の各段階によって栄養要求量や摂取方法が異なってくる。ここに、新生児期、乳児期は著しく発育・発達をとげるので、この時期に最も優れた栄養としての「母乳」を与えることによって、「こころ」と「からだ」のバランスのとれた子どもになってゆくのである。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	新 保育士養成講座編纂委員会『新 保育士養成講座 子どもの食と栄養』社会福祉法人全国社会福祉協議会。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
五大栄養素に栄養素を分類できる。 栄養素を五大栄養素に分類するため、五大栄養素の構造的な違いを説明する。		1
五大栄養素の体内でのそれぞれの役割を説明できる。 それぞれの栄養素（五大栄養素）について役割を構造と関連させながら説明する。		1
ビタミンの多く含まれる食品を列挙できる。 ビタミンの体内での役割、ビタミンの構造を理解し、多く含まれる食品について学ぶ。		1
離乳の定義を説明できる。 離乳とはどのようなことを示すかを理解し、母子、乳児との関連性について学修する。		1
離乳の進行と、初期、前期、中期、後期、完了期に分けて、注意点を説明できる。 離乳の期間を明確にし、それぞれの時期についての注意点を学修する。		1
母乳、調製粉乳について説明できる。 母乳に含まれている成分を列挙し、その成分の乳児への役割を理解する。		1
フォローアップミルク、ペプチドミルクを説明できる。 用途によって異なるミルクが存在することを理解し、それぞれのミルクの役割とともに、そのような時期の乳児へ与えるかを学修する。		1
母乳の栄養的、心理的長所を説明できる。 母乳の長所を栄養学だけでなく、心理学的な部分を学修する。		1
母乳の短所を説明できる。 母乳の短所となる要因を、学修する。		1
偏食の定義を説明できる。 偏食がどのように定義できるかを学修し、疾患との違いを比較する。		1
食欲不振の定義について説明できる。 食欲不振の定義について学修し、疾患との違いを比較する。		1

偏食・食欲不振の食事指導法を説明できる。	1
偏食・食欲不振の食事指導法を学修し、指導内容について確認する。	
熱量素、構成素、調節素について説明できる。	1
栄養素の役割による分類と五大栄養素との関連性について学修する。	
初乳について説明できる。	1
初乳の特徴を学修する。	
母乳の免疫について説明できる。	1
母乳の免疫の特徴と、どのように乳児へ与えられるかを学修する。さらに免疫のメカニズムを確認する。	
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育相談支援演習	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保護者に対する相談支援がなぜ必要か、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、子どもの利益を守り、保護者の問題解決を図る支援の実際を知る。保護者と信頼関係を結びながら、ともに育てる関係作りや地域の関係諸機関との連携の仕方などを学修し、児童福祉施設全般の保育相談への対応、展開ができるようにする。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	柏女霊峰、他『保育相談支援』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育相談支援について 保育相談支援の定義・学ぶ内容		1
保育士の業務と保育相談支援 保育士資格法定化・保育士資格法定化の意義と保護者支援		1
保育相談支援の原理 子ども家庭福祉の原理と保育士の役割・原則と基本		1
保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係 保育相談支援の構造と展開・保育相談支援と相談援助		1
保育相談支援の価値と倫理 保育相談支援における倫理・保育所保育指針における保護者支援の価値と倫理		1
信頼関係を築く受容と自己決定の尊重 保護者を受け止める・自己決定の尊重・信頼関係の捉え方		1
他の社会的資源との連携・協力 連携・協力の必要性・保育相談支援の特性と限界・地域資源や関係機関		1
保育を基盤とした保育相談支援 専門的援助である保育相談支援・保育の特性に基づく保育相談支援		1
保育相談支援の方法と技術 保育相談支援で活用される保育技術・保育相談支援の技術		1
保育相談支援の展開過程 保育相談支援の展開過程について・保育相談支援の展開過程の実際		1
環境を通した保育と保育相談支援（１） 保護者との信頼関係を形成する環境・保護者の日常生活を支える環境		1
環境を通した保育と保育相談支援（２） 保護者の子ども理解を促す環境・家庭の暮らしを支える環境		1
保育所入所児童の保護者への保育相談支援 保育相談支援の手段・保育相談支援の評価・特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援		1

保育所の地域子育て支援における保育相談支援 地域子育て支援の特性と限界・保育相談支援の手段・評価	1
児童福祉施設における保育相談支援 施設機能に即した保育相談支援の特性・施設を利用する保護者の特性	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育児童基礎演習	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育実習に先立ち、保育の実際に触れるとともに、実習生としての基本的なあり方を学ぶ。保育の物的・人的環境(保育施設、設備、人的構成)、保育者と子どもの関係、子ども同士の関係など、知識として学んだことを実際に確認しながら、自らの保育所実習・施設実習への具体的目標や抱負について意識化する。また施設実習について、実習施設の種別ごとの意義や特徴について理解し、実習施設の選択に備える。 手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサートなど保育の基本実技を身につける。自分の日常行動の改善を図り、実習への意欲を高める。	
授業の到達目標		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	大豆生田啓友、他『幼稚園実習・保育所・施設実習 第2 版』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育実習とはどのようなものか、その目的と全体の流れを知る。保育実習の意味・目的を捉え、自己課題をもち、実習に備える。 また、実習がどのような形で展開していくのか、始まりから終わりまでのプロセスを理解する。		1
保育所実習・施設実習の基礎的な知識 (1) その社会的な意味 各々の施設が社会的にどのような意味や役割をもつのか、その存在を知る。		1
保育所実習・施設実習の基礎的な知識 (2) 1日の流れについて 各々の施設の1日はどのように構成されているのか、時系列的に沿って内容を理解する。		1
保育者に求められる資質とは何か 実習生としての心得、マナー等について知る。 実習生にはどのようなことが求められるのか、心得やマナーの実際について理解する。		1
実習に向けての心構えと準備 実習に臨むに当たっての自己課題や実習課題を明確にする。 自分の趣向、性格、長所、短所などを考え、課題を見つけ、実習での態度を作る。		1
教材研究(1) 教材研究の意義及び方法について理解する。 保育教材とあどのようなものか、教材選択の基準、方法を考える。		1
教材研究(2) 子どもの歌、手遊び等について考える。 自ら選択した教材について、年齢、内容、提示の仕方など、保育とのマッチングを考える。		1
教材研究(3) 絵本、紙芝居等の利用について考える。 自ら選択した教材について、年齢、内容、提示の仕方など、保育とのマッチングを考える。		1

教材研究(4) 実際に子どもの歌、手遊び、絵本、紙芝居等を利用し、演習を試みる。 自ら選択した教材を実践し、学生間でお互いに評価し、反省、課題を描き出す。	1
指導計画の考え方 指導計画とはどのようなものか、保育における計画の意味や必要性について考える。	1
指導計画の作成について 現在の子どもの様子から、ねらい、内容、環境の設定、活動の時間、子どもの活動、保育者の援助について詳細を知る。	1
指導計画に沿った模擬保育の展開について 自ら計画した指導案に沿って、実際に活動を展開する。その時々で気がついたことをまとめ、全体の流れに還元する。	1
保育の評価(評価について考え方)について 保育の評価とは何か、どのようなことが評価になるのか、評価の意味、方法、課題の明確化を図れるようにする。	1
障がい児保育における「インクルーシブ保育」について 従来の統合保育とインクルーシブ保育の意味、方法などの違いについて理解する。	1
これまでの学修を振り返り、まとめる。 1 回から14 回までの内容を振り返るとともに、学修内容をまとめ、試験に臨む。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育実習事後指導Ⅰ	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育実習Ⅰでの総括・評価を行い、それを踏まえて保育実習Ⅱ(Ⅲ)に向けた学修目標・課題を明確化する。 1. 保育実習Ⅰで生じた疑問点を解消する。 2. 保育実習Ⅰの反省と自己課題を明確にする。 3. 保育者に求められる資質・能力について理解する。 ※ <u>本スクーリングは保育実習Ⅰ実施後、保育実習Ⅱ(Ⅲ)実施前に受講する。</u>	
授業の到達目標	自己の実習を振り返るとともに、さらなる技術の習得と次の実習に向けて課題克服を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。 駒井美智子『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育所実習の目的、意義を再確認する		1
自己の実習を振り返る(保育所実習)…実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。		1
部分実習・責任実習の指導案の実践について振り返る		1
施設概要をふまえ、施設実習の目的、意義を再確認する		1
自己の実習を振り返る(施設実習)…実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。		1
自己の保育技術についての反省・考察 次回の実習への準備…実習後の自己課題について		1
1～6の学修内容について、スクーリング時に発表できるようにまとめを行う。		1
保育現場に関する視聴覚教材を参考に、保育環境、子どもの人間関係、保育者の援助について学ぶ。 また、子どもを理解する大切さを知る。		1
子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する(0～2歳)		1
子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する(3～5歳)		1
保育技術の修得 教材研究(絵本、紙芝居、折り紙、手遊び等)		1
保育士の専門性について考察する(1) 保育士の専門性とは何か。		1
保育士の専門性について考察する(2) これからの保育者に求められるものとは何か。		1
保育士をとりまく今後の課題について 子育て支援・家庭支援、地域に根ざした保育所とは。		1

実習現場から得られた学びと、この科目の学習で得た新たな保育観についてまとめ、次回の実習における課題を明確にする。	1
計	15
授業単位数	1